

【基本方針1】誰もが文化芸術に触れ合える機会の創出（施策の方向Ⅰ 心の豊かさを目指して、Ⅱ 文化芸術をすべての市民に）															
No.	新	事業名	事業の実施主体	協力・連携先	プラン 基本方針	事業目的	R6		R6 目的達成度、課題など実施により感じたこと	R7 方向性	R7 計画時	市総合計画	まちづくりアンケート		
							計画時	実績					R5	R6速報値	
1		俳句入門教室	公益財団法人 芭蕉翁顕彰会		1-Ⅰ 1-Ⅱ 3-Ⅰ 5-Ⅰ 7-Ⅰ	日常的に俳句に親しむきっかけとして、どこから・何から始めたらよいのか手ほどきから、句会に参加できるまでを学び、俳句人口増加をめざす。 芭蕉生誕地であり俳人が多いとされる伊賀で、子どもの頃の宿題が大変であり、大人になっても苦手意識のある人も多い。苦手のままではなく、俳句は楽しいもの、続けてみたいという思いをもつ。	参加者数	60人	31人	定員20名としているが、各回平均10名で、初心者の学びや句会には丁度良い人数である。 その中から、幾人かは市内の句会に参加し始めた。 終了者の中から、献詠俳句児童生徒の部選者が誕生した。	継続				
	開催数	3回	3回												
	開催経費	50000円	45000円												
	収入	2000円	1000円												
2		気楽に俳句会	公益財団法人 芭蕉翁顕彰会		1-Ⅰ 1-Ⅱ 3-Ⅰ 5-Ⅰ 7-Ⅰ	俳句入門教室を修了したが、どこの句会にも参加できず、せっかく始めた俳句を作る機会としての句会とする。 また、コロナ過で様々な句会や俳句大会が中止され、句会の機会の無い人々に熟練、初心関係なく和気あいあいとした句会で俳句を楽しむ。	参加者数	40人	15人	参加者が少ないが、句会の機会の無い方のため、誰でも参加できる句会を定着させることが大事である。 市内回覧が1度のみであるため、2回目の周知方法の検討が必要。	継続				
	開催数	2回	2回												
	開催経費	30000円	25000円												
	収入	3,000	600												
3		研修・講師派遣事業	公益財団法人 芭蕉翁顕彰会		1-Ⅰ 1-Ⅱ 2-Ⅰ 2-Ⅱ 5-Ⅰ	地域や学校などで、芭蕉さんのことや俳句作りの教室研修の講師について依頼があった場合に、講師の紹介及び派遣により、それぞれの研修の支援をする。	参加者数			地区市民センターや住民自治協議会のほか、企業団体等への派遣を行った。	継続				
	開催数		6か所												
	開催経費														
	収入														
4		大人の寺小屋	公益財団法人 芭蕉翁顕彰会		1-Ⅰ 4-Ⅰ 5-Ⅰ	史跡芭蕉翁生家で、芭蕉さんのお父さんが子どもたちに読み書きを教えていたのことに倣い短時間で継続性のある内容で行う。	参加者数	48人	46人	短時間で分かり易いと好評を得た。 定員が毎回12名と少ないので、参加できなかった方へ資料の提供をした。	継続				
	開催数	4回	4回												
	開催経費	22000円	30000円												
	収入	1000円													
5		丸之内地下道掲示板 芭蕉さんの句及び季節の句掲示	公益財団法人 芭蕉翁顕彰会		1-Ⅰ 1-Ⅱ 2-Ⅰ 2-Ⅱ 4-Ⅰ	毎日通る高校生などが、俳句によって季節の移り変わりを感じることが出来る。 また、観光客などは、季節だけでなく、芭蕉さんのふるさとと伊賀らしさを感じることができる。	参加者数			広告効果を上げるために、掲示板の開閉しやすさ、また常時清掃しやすい設備が必要。 掲示板の不備が多い。鍵の保管について一考されたい。	継続				
	開催数														
	開催経費														
	収入														
6		芭蕉講座	公益財団法人 芭蕉翁顕彰会		1-Ⅰ 5-Ⅰ	芭蕉、俳句、俳諧の研究者や俳人の講演により俳文学の振興等を図る。	参加者数	100人	88人	芭蕉や俳文学の研究家の講演は難しいという印象を与え、俳人の講演であると、若干参加者が増える。	継続				
	開催数	1回	1回												
	開催経費	170000円	150000円												
	収入	5000円	8500円												
7		蕉門大学フォトゼミナール	公益財団法人 前田教育会		1-Ⅰ 7-Ⅱ	風景写真に主として取り組み、それぞれの作品に磨きをかけている。受講生同志の情報共有も大切にしている。病院との協働。	参加者数	15人	15人	参加者数は達成している。若干、年齢層が高くなって来ている。	継続				
	開催数	12回	12回												
	開催経費	-													
	収入	180,000	168,000												
8		蕉門大学絵画教室	公益財団法人 前田教育会		1-Ⅰ	個性の表現、自分らしい絵をみつける。	参加者数	10人	2人	年度途中に2名が病気のため退会した。	継続				
	開催数	24回	24回												
	開催経費														
	収入														
9		蕉門大学俳句教室	公益財団法人 前田教育会		5-Ⅰ	2024年度芭蕉生誕380年を迎えます。俳句に親しむ、俳句人口を増やすことを目的に初心者を対象としている。2002年(平成14年)から行っている事業です。	参加者数	15人	7人	2024年度で第23期生となる。「俳句」は敷居が高いと思われるがである。随時入学を取り入れている。	継続				
	開催数	12回	7回												
	開催経費														
	収入														
10		蕉門大学講座ピアノレスナーグループ「ボンミスト」第9回事業アンサンブルの楽しみVol.2～ピアノトリオ～	公益財団法人 前田教育会		1-Ⅰ 2-Ⅱ 7-Ⅰ	コンサートピアノを最大限活用したいという想いから、運営委員洋楽担当を中心にピアノレスナーグループ「ボンミスト」を編成。バイオリン、チェロ、ピアノのアンサンブルの魅力を味わって欲しい。	参加者数	200人	132人	普段は1人でピアノレッスンを受けている他の楽器と一緒に弾くという経験は貴重	継続				
	開催数														
	開催経費														
	収入														

【基本方針2】子どもたちが文化芸術を体感できる機会の拡充（施策の方向Ⅰ 子どもたちの心を豊かに、Ⅱ 成長に即した文化芸術の提供）

No.	新	事業名	事業の実施主体	協力・連携先	プラン 基本方針	事業目的	R6		R6 目的達成度、課題など実施により感じたこと	R7 方向性	R7 計画時	市総合計画	まちづくりアンケート	
							計画時	実績					R5	R6速報値
11		こども句会	公益財団法人 芭蕉翁顕彰会		2-Ⅰ 2-Ⅱ 5-Ⅰ	俳句を楽しく学び、俳句が好きな子を増やす。 将来的には、こども句会を定期的(月1回)に開催し、その句会には、都合のつく子が自由に出入りできるようにする。	参加者数	40人		継続	40人 2回 30,000			
							開催数	2回						
							開催経費	30,000						
							収入							
12		夏休みこども俳句指導	公益財団法人 芭蕉翁顕彰会		2-Ⅰ 2-Ⅱ 5-Ⅰ	長年「俳句の日」に「こども俳句教室」を行い、芭蕉翁献詠俳句の事業として夏休みの宿題になっている「献詠俳句」の指導を行っていたが、当日の成果発表もないため、複数日の個別指導の機会をつくる。 都合のよい日、よい時間に、個別に指導を受けることができる。	参加者数	60人	43人	継続	60 3 50,000			
							開催数	3回	3回					
							開催経費	50000円	35000円					
							収入							
13		こども俳句合わせ(バトルバナナ)	公益財団法人 芭蕉翁顕彰会		2-Ⅰ 2-Ⅱ 5-Ⅰ	芭蕉翁が「貝おほひ」を上野天満宮へ奉納したことに肖り実施。こどもたちが俳句を楽しむために、一定のゲーム性を持たせる。	参加者数	36人	48人	継続	36 1 150,000			
							開催数	1回	1回					
							開催経費	100,000	214,000					
							収入							
14		お城の俳句募集	公益財団法人 伊賀文化産業協会		2-Ⅰ 3-Ⅱ 5-Ⅰ 7-Ⅱ	お城(主に上野城)をテーマにした俳句を小中学生を対象に募集。上野城への興味、関心を俳句という方法で表現して貰うことで芭蕉翁生誕380年の年に企画。	参加者数		120人	廃止する				
							開催数		1回					
							開催経費		100,000円					
							収入							

【基本方針2】子どもたちが文化芸術を体感できる機会の拡充（施策の方向Ⅰ 子どもたちの心を豊かに、Ⅱ 成長に即した文化芸術の提供）															
No.	新	事業名	事業の実施主体	協力・連携先	プラン 基本方針	事業目的	R6		R6 目的達成度、課題など実施により感じたこと	R7 方向性	R7 計画時	市総合計画	まちづくりアンケート		
							計画時	実績					R5	R6速報値	
15		伊賀上野しょうもん亭	公益財団法人 前田教育会		2-Ⅱ 7-Ⅰ	2013年辺りから再び落語ブーム到来となり、復活し、10年間、年5回の開催をしてきた。蕉門ホールの閉鎖により、入場者の減となるが、落語のおもしろさを味わってほしい。	参加者数	210人	115人	ホール閉鎖による開催会場の都合もあり、1回減の2回となった。会場は講座室(60席)のため、2回についてはほぼ満席であった。	継続				
							開催数	3回	2回						280人
							開催経費								4回
							収入								
16		こども蕉門大学	公益財団法人 前田教育会		2-Ⅰ 2-Ⅱ	前田教育会館開館25周年を機に、小中学校生対象に開催している。次世代に伝承すべき事、また、感性、自由な発想を伸ばすにつなげる体験をする。	参加者数	各10名	くみひも13名	開始時期を見直したところ、以前より参加者が増えた。	継続				
							開催数		はいく 9名						
							開催経費								
							収入								
17		蕉門大学陶芸教室	公益財団法人 前田教育会		1- 3- 7-Ⅰ	伊賀焼きを身近に感じることを目的として、普段使いの小皿等から始める。中級上級と進に従って、市展県展等への出展を勧める。	参加者数	10人	3人	参加者数の達成度は低い。陶芸の「ブーム」も一因しているように感じる。	継続				
							開催数	9回	9回						10人
							開催経費								9回
							収入	13,500円	45,000円						
18		中学のキャリア体験・高校生の郷土学習の受け入れ協力	公益財団法人伊賀文化産業協会		3-Ⅰ 5-Ⅰ 7-Ⅰ	中学生のキャリア体験学習、高校生の伊賀の歴史・文化を学ぶフィールドワークに協力し、若い世代の郷土への理解に促進に期待。	参加者数		30人	学校の養成に応える形の事業であるので達成度は生徒側の問題。中学生のキャリア体験としては、直接就職先に該当しないので次年度は敢えて受け入れはしないこととする。	継続				
							開催数		3回						10人
							開催経費								9回
							収入								

【基本方針4】施設の整備・有効活用による文化芸術環境の整備（施策の方向Ⅰ 施設の管理と機能の発揮、Ⅱ 施設の保存と有効活用）														
No.	新	事業名	事業の実施主体	協力・連携先	プラン 基本方針	事業目的	R6		R6 目的達成度、課題など実施により感じたこと	R7 方向性	R7 計画時	市総合計画	まちづくりアンケート	
							計画時	R6 実績					R5	R6速報値
19		蓑虫庵管理事業	公益財団法人 芭蕉翁顕彰会		4-Ⅰ 4-Ⅱ	芭蕉翁ゆかりの蓑虫庵を保存・管理し、一般の参観に供することによって市民文化の向上及び文化の振興を図るとともに、地域の振興に資する	参加者数	2,000人	2,773	継続	2,500			
							開催数							
							開催経費	6,295,000	6,610,942		6,674,000			
							収入	6,202,000	6,462,050		6,466,000			
20		蓑虫庵講座	公益財団法人 芭蕉翁顕彰会・伊賀市		4-Ⅰ 4-Ⅱ	芭蕉の弟子服部土芳の庵管理の一環として、毎年春分の日に土芳や芭蕉について、学芸員が講演を行い、春めいた蓑虫庵参観のを促す。	参加者数	30人	26人	継続	30			
							開催数							
							開催経費	20,000	6,500		20,000			
							収入	1,000	0		1,000			
21		蓑虫庵でお茶を一服	公益財団法人 芭蕉翁顕彰会・伊賀市		4-Ⅰ 4-Ⅱ	蓑虫庵参観促進を行い、土芳の芭蕉顕彰の功績を啓める。	参加者数	200人	120人	継続	150			
							開催数	1回	1回		1			
							開催経費	100,000	67,000		100,000			
							収入	50,000	46,800		50,000			
22		史跡芭蕉翁生家管理事業	公益財団法人 芭蕉翁顕彰会・伊賀市		4-Ⅰ 4-Ⅱ	俳聖松尾芭蕉ゆかりの史跡芭蕉翁生家を保存・管理し、一般の観覧に供することによって市民文化の向上及び文化の振興を図るとともに、地域の振興に資する	参加者数	4,000人	4,421人	継続	4,000			
							開催数							
							開催経費	5,290,000	5,905,599		5,917,000			
							収入	5,485,000	5,095,730		5,449,000			
23		大天守閣でのイベント	公益財団法人 伊賀文化産業協会		4-Ⅱ 5-Ⅰ 7-Ⅱ	天守閣という独特のロケーションの中でお琴の演奏を楽しみ、ひととき超俗の雰囲気を楽しんでいただく会。誰もが知っているお城の知識からちょっと難しい問題まで、クイズに答えてお城の“はかせちゃん”になってもらう。	参加者数		80人	継続	30			
							開催数		2回					
							開催経費		30,000		20,000			
							収入		0		1,000			

【基本方針5】歴史と風土が育む文化芸術の継承と新たな文化芸術の創造（施策の方向Ⅰ 郷土が育んできた歴史・文化の再評価、Ⅱ 新しい文化芸術の創造）															
No.	新	事業名	事業の実施主体	協力・連携先	プラン 基本方針	事業目的	R6		R6 目的達成度、課題など実施により感じたこと	R7 方向性	R7 計画時	市総合計画	まちづくりアンケート		
							計画時	実績					R5	R6速報値	
24		芭蕉祭	公益財団法人 芭蕉翁顕彰会・伊賀市		5-Ⅰ	芭蕉翁が元禄7年(1694)10月12日、51歳で亡くなった翌年から毎年開催し、翁を偲ぶ。	参加者数		30食限定のため、市民が知る機会が少ない	継続					
							開催数	1回			1回				1
							開催経費	7,373,000			7,374,023				7,559,000
							収入	6,903,000			6,979,500				7,253,000
25		芭蕉祭 月見の献立歓迎会	公益財団法人 芭蕉翁顕彰会・伊賀市		5-Ⅰ	復元研究した「月見の献立再現の会」により調理され、世に広め後世へ伝えていく。	参加者数	30人		継続	30人				
							開催数	1回			1回				1回
							開催経費	130000円			105000円				130000円
							収入								
26		芭蕉祭 全国俳句大会	公益財団法人 芭蕉翁顕彰会・伊賀市		1-Ⅰ 1-Ⅱ 5-Ⅰ	芭蕉祭式典終了後、参列者が俳句大会で芭蕉翁を偲ぶ。	参加者数	80人		継続	80人				
							開催数	1回			1回				1回
							開催経費	290,000			285,000				350,000
							収入								
27		しぐれ忌	公益財団法人 芭蕉翁顕彰会・伊賀市	山出地区「しぐれ忌協賛 実行委員会」	5-Ⅰ	芭蕉祭を新暦で実施しているのに対し、旧伊賀町の芭蕉翁顕彰会が旧暦の命日に芭蕉翁を偲び実施していた。市町村合併、顕彰会合併を経て、当日の運営を地元山出地区「しぐれ忌協賛実行委員会」に委託し、翁を偲ぶ。	参加者数	100人	コロナのために中止していた、コーラスユーによる「芭蕉讃歌」の合唱が復活した。	継続	100				
							開催数	1回			1回				1
							開催経費	300,000			300,000				300,000
							収入								
28		土芳忌	公益財団法人 芭蕉翁顕彰会		5-Ⅰ	芭蕉翁の句や教えをまとめ後世へ伝えた芭蕉の弟子、伊賀蕉門の中心であった服部土芳のを称え、偲ぶ。	参加者数	50人	参加を促すには、土芳を偲ぶ意義を、わかり易く伝えることが必要。	継続	30				
							開催数	1回			1回				1
							開催経費	20,000			20,000				200,000
							収入								
29		土芳忌追善の講話	公益財団法人 芭蕉翁顕彰会		5-Ⅰ	芭蕉翁の句や教えをまとめ後世へ伝えた芭蕉の弟子、伊賀蕉門の中心であった服部土芳のを称え、偲ぶ。	参加者数	50人		継続	50				
							開催数	1回			1回				1
							開催経費	5,000			1,500				5,000
							収入								
30		土芳を偲ぶ俳句会	公益財団法人 芭蕉翁顕彰会		1-Ⅰ 5-Ⅰ	芭蕉の弟子、服部土芳の命日に俳句会を行い土芳を偲ぶ。	参加者数	50人	土芳を偲ぶ俳句会であるため、当日の法要の様子を詠んだ句が多く、法要に参列しない人は参加しにくい。	継続	50				
							開催数	1回			1回				1
							開催経費	60,000			57,200				60,000
							収入								

【基本方針5】歴史と風土が育む文化芸術の継承と新たな文化芸術の創造（施策の方向Ⅰ 郷土が育んできた歴史・文化の再評価、Ⅱ 新しい文化芸術の創造）															
No.	新	事業名	事業の実施主体	協力・連携先	プラン 基本方針	事業目的	R6		R6 目的達成度、課題など実施により感じたこと	R7 方向性	R7 計画時	市総合計画	まちづくりアンケート		
							計画時	実績					R5	R6速報値	
31		俳句の教え方教室(句会を楽しむ)	公益財団法人 芭蕉翁顕彰会		2-Ⅰ 2-Ⅱ 5-Ⅰ	市内の小中学校では芭蕉祭に献詠するため、俳句が夏休みの宿題となっている。 献詠俳句の指導だけでなく、俳句裾野を広げる指導者が、俳句指導の取組方について学ぶ。 献詠俳句の指導ができるよう、指導者自身が句会を楽しむことにより俳句の楽しさを子どもたちに伝える。	参加者数	30人	21人	伊賀の学校では、俳句学習の重要性を認識されているため、積極的な参加及び意見も活発に出された。	継続				
							開催数	1回	1回						
							開催経費	10,000	8,000						
							収入								

【基本方針7】文化芸術を通した社会的課題への取り組み（施策の方向Ⅰ 社会参加のきっかけづくり、Ⅱ 協働の場の創造）															
No.	新	事業名	事業の実施主体	協力・連携先	プラン 基本方針	事業目的		R6 計画時	R6 実績	R6 目的達成度、課題など実施により感じたこと	R7 方向性	R7 計画時	市総合計画	まちづくりアンケート	
														R5	R6速報値
32		蕉門キネマゼミ	公益財団法人 前田教育会	伊賀市社会福祉協議会 (共催)	7-Ⅰ	社協が取り組んでいる生活課題をも踏まえ、話題作を上映予定	参加者数	300人	247人	参加者については、予約は280名であったが、インフルエンザ等流行のため、当日のキャンセルが多かった。	継続	300人			
									1回						
33		蕉門キネマゼミ	公益財団法人 前田教育会		1-Ⅰ 2-Ⅱ	蕉門ホール施設さよなら上映会として行う。	参加者数	600人	196人	既にDVDが発売されていた。 行事の重なりが多かった。 予約のキャンセルはなかった。	継続				
									3回						